



複雑繊細な造形が特徴の殷周青銅器には、当時の人々の使用していた文字が銘文として  
鑄込まれていることがあります。この中国古代の文字―金文―は、現在のわたしたちが  
使用している漢字の古い字形であり、当時の社会や文化のあり方を考えるうえで貴重な  
手がかりとなっています。書かれた内容を丹念に読み込むと、中国古代の人々の息遣い  
が聞こえてきそうなリリティを味わうことができます。また文字としての美しさも  
さわだつており、力強さと生命力にあふれた書風は歴代の書家たちを魅了し、影響を与  
えてきました。今秋の「ブロンズギャラリー」ではこの金文をテーマとし、住友コレクション  
とともに、その豊かな世界をさぐる特集展示を開催します。芸術の秋、現代にまで受け  
継がれる漢字文化の源流をたずねて、泉屋博古館までぜひお越しください。

「宰梲角（さいこかく）」 殷後期 前11世紀

温酒器の一種、角の内面に5行30字、小さな把手（鑿）の  
内面に2字の銘文が入る。器内面の銘文の方は、宰梲  
なる人物が殷王の主催する祭祀に参加し、なんらかの  
役割を果たした褒賞としてタカラガイを下賜され、  
それを用いて父親をまつための器をつくらせたとい  
う経緯を記す。なお、ここに登場する殷王は殷王朝  
最後の王、帝辛（紂王）をさすと考えられ、殷代末期の状況  
を記した稀少な一次資料としてきわめて高い歴史的  
価値を有する。鑿下の2文字はおそらく宰梲の属する  
一族のシンボルマークのようなものと解釈されており、  
おなじ銘文をもつ器が出土資料にも含まれている。



2026年

9月5日(土)～  
12月20日(日)

休館日：月曜日（9月21日、10月12日、11月23日は開館、  
（9月24日（木）、10月13日（火）、11月24日（火）は休館）

開館時間：午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

主催：公益財団法人泉屋博古館

後援：京都市京都市教育委員会、京都市内博物館施設連絡協議会、  
公益社団法人京都市観光協会、NHK京都放送局、京都新聞

泉屋博古館

京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24 Tel: 075-771-6411



中国青銅器  
の時代

Sen-oku Hakukokan Museum

BRONZE  
GALLERY

●Gallery-03………[特集展示]  
「金文の世界」



泉屋博古館  
SEN OKU HAKUKOKAN MUSEUM

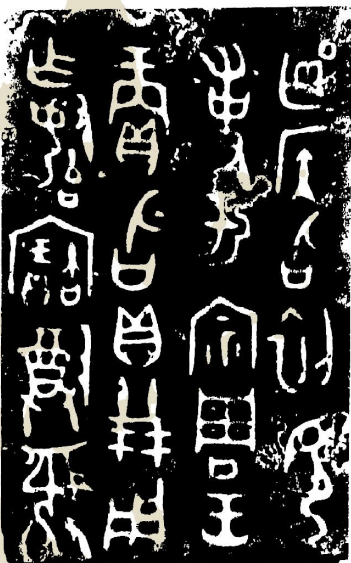
# BRONZE GALLERY

## 「匱侯」旨鼎（えんこうしてう） 西周前期 前11・10世紀

肉入りスープを煮る器鼎のなかでも脚部の付け根が袋状にふくらむ「匱」とよばれるタイプ。器内面に4行21字の銘文が入り、現在の北京市近郊に所在した匱（燕）の諸侯であった旨が、周王朝のみやこである宗周にて周王の目通りがかない、褒賞としてタカラガイが下賜



され、それを用いて旨の母親かと思われる姒をまつための器をつくらせたこと記す。北京から周王朝の本拠地であった陝西省までは直線距離にして約1000km、その距離を移動して諸侯が王に目通りをしていた事実は、当時の支配関係の実態をさぐるうえできわめて重要な意味をもつ。銘文はまた曲線美の豊かな字姿によってあらわされ、西周前半期の書風の典型例を示している。



## 「執父辛簋」（けいふしんき） 西周前期 前11・10世紀

穀物を盛るための器簋の器内面には3文字の銘文が入り、「執父辛」と読まれている。1文字目の「執」は、右側にひびきやすく人物が若木をささげもつ姿をあらわしている。『説文解字』によれば、「執」は種えるの意味と記されており、人物が苗木を植える字形によって、その意味をシンボライズしていると考えられる。「執」はまた「藝」、「藝」にもつく。藝の意味で一般的に用いられている「芸」は本来は「ウン」と発音し、香草を意味する別字。



# 新編

## 「虘羌鐘」（ひょうきやうしやう） 戦国前期 前5世紀

14器がセットをなす編鐘で、12器が泉屋博物館に、のこり2器はカナダのロイヤルオンタリオ博物館に収蔵される。鐘の表裏の鉦間には計8行61字の銘文がほどこされ、虘羌なる人物が主君である韓宗にしたがい、秦や斉、楚などの戦役で軍功を立て、その功績を韓宗のみならず晋公、周王に認められたことを記す。戦国前期の様相について記した文字史料がとぼしいなか、本銘は当時の軍事活動の実態を記録したものととして著名。また銘文の字体は、西周時代のものに比較して力強く直線的な書風へと変化しており、時代による変遷を追うことができる点でも興味深い。



## 「競卣」（きやうゆう） 西周中期 前10世紀

酒や香草の煮汁を容れる器卣の内底と蓋内面にはそれぞれ8行51字の銘文が入る。伯屋父なる人物は、王命を受けて成周（現在の洛陽）の駐屯軍を率い、南夷という異民族の侵攻を食い止めるために出征する。その麾下にあった競は、働きぶりを伯屋父に認められ、その恩寵にこたえるために父をまつための器をつくらせたことある。西周中期以降、こうした異民族の侵入とその攻防について記す金文が増加するようになり、当初の勢いを失い、徐々に守勢に回るようになる周王朝の実態を物語る。時代の転換点を記録した貴重な金文の一例。



2026年

9月5日(土)～12月20日(日)

休館日：月曜日（9月21日、10月12日、11月23日は開館、9月24日(木)、10月13日(火)、11月24日(火)は休館）

開館時間：午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

入館料：一般1200円（1000円）、学生800円（700円）、18歳以下無料

※学生ならびに18歳以下のかたは証明書の提示が必要です  
※20名以上は（ ）内の団体料金  
※障がい者手帳等呈示のかたはご本人ならびに付添1名様無料

主催：公益財団法人泉屋博物館  
後援：京都市京都市教育委員会、京都市内博物館施設連絡協議会、公益社団法人京都市観光協会、NHK京都放送局、京都新聞

## 「アクセス案内」

京都市バスⅡ・JR 新幹線 近鉄電車 京都駅／京阪電車 三条駅から5・105系統 ●阪急電車 烏丸駅 から32・203系統 ●地下鉄烏丸線「丸太町駅」から93・204系統  
●593・203・204系統「東天王町」下車、東へ200メートル  
●32・105系統「宮ノ前町」下車、徒歩約20分  
地下鉄Ⅱ東西線「蹴上駅」から徒歩約20分

## ●銀閣寺 泉屋博物館

鹿ヶ谷通 市バス宮ノ前町○ ●永観堂 ●南禅寺 ●蹴上駅

白川通 市バス東天王町● ●動物園 ●東山駅

東大路通 市バス東天王町● ●平安神宮 ●三条通 ●京阪三条駅

京阪電車 神宮丸太町駅 ●地下鉄三條線 ●地下鉄三條線 ●京阪三条駅

鴨川 丸太町通 三條通 地下鉄